

こちらに来て感じたこと



神経内科

もとくら えみ
本倉 恵美先生

こんにちは。岡山大学病院から来ました、神経内科 本倉恵美です。自分に素敵な趣味や自慢できる事がないので、ここでは時々思うことをつぶやこうと思います。

時々、医者って変で不思議な仕事だなと思っています。診察の時、相手の希望を聞く前に服をまくって色んな場所を触ったり、聴診器を当てたり。治療の時、相手の皮膚に針を刺したり、薬を飲ませたり。髄液検査では、相手の背中に針を刺して髄液を抜いています。許される範囲内でやっている

ことだけど、表現の仕方によっては結構怖いことをしているなと思います。相手にとって良いと思ってやった事が、相手の感じ方では良くない事だったりするし、結果的に悪い方向に行く事もある。その塩梅が難しい。医学的にまだ分かっていないことも多いし、100%正解の治療法も決まっていない。だからこそ、面白いと感じるのかもしれないね。このことは医者を目指し始めた学生時代には思ってもみなかったことです。

大学を卒業し医者始めて4年目、本格的に外来診察を始めて2年目。患者さんは自分の困っている症状を何とかして欲しいと思って外来を受診しに来ます。患者さんは私より年上の方が多くですが、熱心に自分の症状を私に教えてくれます。その症状を何とかしてあげたいと思うけど、すぐに良い方法が思いつかないことが多々あります。そこで経験不足だからしょうがないと思っではいけないのです。患者さんにとっては私の経験年数なんて関係なくて、目の前の医者に何とかして欲しくて色々症状を教えてくれるのです。患者さんが求める満足度に到達するまでの難しさを感じる日々で

す。私の頭の中には対処法BOXがまだ数個しかありませんが、先輩先生方のアドバイスと自主学習と経験とで何十個にも増やしたいと思っています。

仕事をする時に感じるのは人とのつながりです。先輩先生方、看護師さんたち、コメディカルの方々、事務の方々、警備・売店・掃除の方々、患者さん、患者さん家族…。1人では仕事できません。倉敷平成病院にやって来て、仕事を助けて下さる方々の大切さを改めて感じました。仕事以外にも飲み会や旅行、バレーボール部にも誘って頂いてありがたいことだなと思っています。

今回の勤務は9月末までとなっていますが、ここで出会った人とのつながりを大切にして、ずっと長く続けられたらいいなと思っています。

これからも宜しくお願ひします。

本倉先生は毎週月・木曜日午前の神経内科外来と毎週火曜午前・第3週土曜日午前のもの忘れ外来と入院患者さんの治療を担当されています。

Doctor's Eyes